



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

2006.9

No. 269

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 御蔵島 & 三宅島に行ってきました！

藤掛保司(川越市)

5月10日から14日にかけて、鳥友6名とともに(写真下)御蔵島と三宅島に行ってきました。

三宅島ではこの期間、アカコッコ館が『三宅島バードアイランドフェスティバル2006』を開催しており、これにも参加しました。参加申込者には事前打合せも実施されましたが、ガスマスク携帯が義務付けられている現在、中には子供さんが火山ガスを心配して「止めようよ」と言い出し、中止した人もいらっしゃいました。

## 御蔵島に到着

三宅島へは東京竹芝桟橋港から南へ200km、御蔵島には、三宅島から更に南へ18km。周囲17km、島民約280人、警察官1名。島民の方の話では、接岸率は50%、冬季は1～2週間接岸出来ない事もあるとか。

## 御蔵島の野鳥

紀宮様御来島の際に探鳥されたコース、オオミズナギドリ朝の飛び立ちの斜め木や、埦入りの場所等を案内して頂きました。オオミズナギドリは、200～300万羽が営巣する国内最大の繁殖地との事。

なお、三宅島の噴火以降、アカコッコ・イイジマムシクイ・オーストンヤマガラ・タネコマドリ・シチトウメジロ等、避難してきた野鳥が多くなったとの事でした。

## 三宅島に到着

錆ヶ浜港接岸直前に、船内でも火山ガスの臭いを感じました。港では、ガスマスクを販売していました。民宿「新鼻荘」のお女将さんの話では、宿には貸し出し用のガスマスク



が用意してあるとの事で、急いで送迎車に乗り込みました。

埼玉県支部の定宿であった民宿「ふるさと」は、営業をしていませんでした。

大路池周辺では、アカコッコ・タネコマドリ・イイジマムシクイ・カラスバト・オーストンヤマガラ等、久しぶりに元気な姿を観察出来ました。噴火前にはいなかったオオバンが大路池にいました。

## バードアイランドフェスティバル

『三宅島バードアイランドフェスティバル2006』の楽しみのひとつ、「**カンムリウミスズメウォッチング**」。私達の組は荒海の為に中止となりました、残念。

### 「三宅島復興記念バードウォッチングگرانプリ」

13日午前10時から14日午前10時までの間、9組(1組2人以上)が参加し、観察した鳥の種数を競いました。

私達6名も3組に分かれ参加しました。雨の中、大路池周辺、開港していない空港周辺、島内一周を新鼻荘の車を借用して観察しました。

結果は、山口・吉安組28種、兼元・宮下組27種、藤掛・岸組27種で、各組とも敢闘賞を受賞しました。

参加賞は三宅島噴火の火山灰の入った小瓶と野鳥イラスト葉書でした。ちなみに、1位35種、2位34種、3位30種でした。

三宅島の野鳥の数は、木の実が少ない事や火山ガスによって樹木が復興していない部分があり、以前と比べ減少しているようです。

### 「講演カムリウミスズメの現状と保護」

減少がみられるとのことでした。三本岳周辺の繁殖地には、従来いなかったカモメ類やハシブトガラスが多くなり、ヒナや親鳥が捕食されたり、釣り糸にからまった姿も見かけたりするとの事です。原因の一つに、釣り人が余ったこませやごみ等を捨てて帰る為と考えられるそうです。しかし、釣り人も島の収入源であり、規制はできないのでマナーを守る様にPRするとのことです。

## 民宿 新鼻荘

私にとって、以前、故ジャック・モイヤーさんと夜に懇談した思い出の宿です。明日葉(あしたば)の天ぷら、新鮮なアカイカの刺身、ムロアジの塩焼きや、クサヤの焼きたて等々。以前は、オーストンヤマガラが手のひらから餌をとりましたが、現在は警戒して近づきませんでした。

## 帰路 三池港を出航

三池港周辺の樹木は真っ赤に枯れていたし、港のお土産店も閉鎖していました。3日間、ガスマスクは使用せずにすみませんでした。未開封のガスマスクはお土産になりました。

## 埼玉県支部の野鳥記録

支部報『しらこぼと』の1993年4月～2000年5月(1995年は荒天による船の欠航の為に中止)の7回の探鳥会で、出現鳥は合計97種でした。

## 今回の三宅島での野鳥観察

出現鳥は33種でした。

オオミズナギドリ・ウミウ・アマサギ・ダイサギ・コサギ・トビ・コジュケイ・キジ・オオバン・ムナグロ・ウミネコ・カラスバト・ツツドリ・ホトトギス・アマツバメ・コゲラ・ツバメ・イワツバメ・ヒヨドリ・ミソサザイ・コマドリ・イソヒヨドリ・アカコッコ・ウグイス・メボソムシクイ・イイジマムシクイ・



イイジマムシクイ(編集部)

オーストンヤマガラ・シジュウカラ・メジロ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ハシブトガラス。

## 船室

往路は2等和室を利用、毛布1枚100円×2枚が必要。復路は和室満席の為、リクライニング付きの2等椅子席を利用。ほとんどデッキで海鳥観察をしていました。

## 三宅島探鳥会の可能性

三宅島民の帰島1年を過ぎた今日、「アカコッコは元気だろうか」「2000年7月の噴火での火山ガスの影響はどうだろうか」等々、話題はつきません。

しかし、今回の三宅島行きで、先ずは「百聞は一見に如かず」の印象を受けました。三宅島への探鳥は、2000年5月までの支部の探鳥会と同様に実施できそうです。

アカコッコ・タネコマドリ・イイジマムシクイ・カラスバト・オーストンヤマガラ・オオミズナギドリ等々の野鳥観察も十分堪能出来ます。

火山ガスによるガスマスクの規制は部分的にあります。個人差がありますので、体調に合わせてのご注意が必要ですが、今回のアカコッコ館、大路池、新鼻荘周辺、探鳥コースでは、ガスマスク未着用でも心配ありませんでした。

スーパーマーケットは数軒あり、嗜好品、お土産品の購入が出来ます。島内村営バスも運行しています。アカコッコ館の入館料金は200円。新鼻荘の宿泊人数は定員25名です。

**がんばれ、三宅島!!**

# 2006年冬 カワウ屋の生息数調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

2006年1月7日～9日、カモ科調査と同時に実施されたカワウの飛来数調査を報告する。

カワウの飛来数は、冬季の方が、東京湾での餌取りが難しいために多い(須川ほか 2004)。カワウは、1日1羽当たり 500g の魚を食べている(須川ほか 2004)。本調査地での3年間平均飛来数 1,283羽。1日 642kg の魚を食べている計算になる。

本県の河川は、都市化に伴う洪水対策により放水路化し、水生生物が住みにくい環境に変っている。カワウの多数の飛来は、貧弱な河川生態系を、より一層生物の住みにくい環境へ追いやっている面がある。水生植物、水生昆虫、魚、水鳥という河川生態系全般の自然環境回復が、今、必要である。  
(小荷田行男)

文献

須川恒ほか 2004 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ編) 日本野鳥の会

調査地	入間川		荒川						そうか公園	古利根川		利根川	渡良瀬遊水地	狭山湖	小畔川調節池	新河岸川	
	豊水橋～新富士見橋	初雁橋～雁見橋	荒川鉄橋～戸田橋	(荒川第一調節池)	秋ヶ瀬橋～羽根倉橋	南畑排水機場びん沼川	荒川大橋～明戸堰	玉淀ダム		寿橋～堂面橋	藤塚橋～古利根橋						
調査範囲																	
地域	狭山市	川越市	戸川口市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	熊谷市	寄居町	草加市	松伏谷町	春日部市	越谷市	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市
2004年	2	5	3	136	3	9	-	2	6	2	-	-	307	-	1	3	
2005年	2	-	300	503	5	6	6	0	0	5	0	8	992	68	0	1	
2006年	5	-	165	193	0	0	4	0	1	3	5	46	459	3	0	7	

百穴湖	武蔵公園	大沼公園	川越水上公園	八丁湖	県立農林公園	昭和池	さきたま古墳	白幡沼	見沼自然公園	柳瀬川	黒浜沼	元荒川	赤堀遊水池	緑の丘公園	宝蔵寺沼	越辺川	合計
公園内の池全部	公園内の池全部	大沼	池全部	池全部	芳沼	久喜菖蒲公園	古墳の池全部	沼全部	池全部	富士見橋～栄橋	上沼	城北大橋～水管橋	池全部	池全部	池全部	八幡団地前	
吉見町	滑川町	江南町	川越市	吉見町	川本町	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	富士見市	蓮田市	岩槻市	桶川市	松伏町	羽生市	川島町	
7	136	0	-	4	0	42	2	0	3	1	0	2	20	-	-	-	696
5	191	0	2	-	0	24	0	0	0	1	8	0	22	-	-	-	2127
3	19	0	15	0	0	63	0	0	1	1	4	1	18	0	1	8	1025

## シロハラクイナ繁殖地での農薬散布についての要望書と礼状

2006年7月25日

さいたま農業協同組合 様      さいたま農業協同組合分館 経済部 様

日本野鳥の会埼玉県支部 支部長 藤掛保司

### 珍鳥シロハラクイナの雛たちの保護についての要望書

**要望の趣旨** (中略) 明 26 日に予定されている農薬の散布について、地図(添付省略)中央のシロハラクイナ繁殖地の周囲 50m ほどは散布をしないようにお願いします。やむなく散布する場合は、散布量を必要最少限度とするように、お願いします。

**シロハラクイナとは**(中略)

**今日に至るまでの経過** (中略) 7月23日(日)11時40分ころ、アシ原の下から、親に連れられた雛5羽が姿を見せました。(中略)

**農薬散布で心配される影響** 明 26 日に農薬散布が予定されていることは事前に承知していましたが、小型昆虫(カメムシ)を対象とする毒性の弱いものであり、魚には毒性がない、シロハラクイナの巣があるアシ原には散布しないと聞き、あまり大きな影響はないのでは、と考えられていました。しかし、前記の通り雛たちが水田に出てくるようになって、事情が変りました。雛たちが水田内にいる状態で農薬散布された場合、

- 1, 農薬は半日で乾燥し無毒化するとのことですが、その前に雛たちに直接触れた場合、ただちに死亡には繋がらないにしても、長期的に見て、健康への悪影響が心配されます。
- 2, 農薬で死んだ小型昆虫を採食した場合、体内に農薬が残ることになり、やはり長期的に見て、健康への悪影響が心配されます。よって、前記の通りのお願いをする次第です。

たんに珍しい鳥が見たいからという、趣味的な立場でお願いしているものではありません。私たち野鳥の会の会員たちも社会人として、生産活動、経済活動の重要さは十分に承知しています。しかし、もの言えない野鳥に代わって誰かがその立場を訴えたとしたら、私たち野鳥の会がその代弁者にならなければならない、という思いがあるわけです。

本件農耕地は、近年低農薬農法に努力されているおかげでしょうか、鳥類、獣類、魚類、昆虫類などが多く、豊かな自然環境が維持されている貴重な空間であると高く評価しています。そのための農家の皆様のご長年のご努力には、日ごろから敬意をささげているところでもあります。シロハラクイナは、その豊かな自然のシンボルとしても、大変貴重なものと考えられます。どうかご理解をお願い申し上げます。

2006年8月1日

(宛名、差出人、前に同じ)

**珍鳥シロハラクイナの雛たちの保護にご協力いただき、まことにありがとうございました。**

7月26日(水)午前5時00分~午前7時45分に実施された農薬散布作業には、藤掛および当支部幹事・長嶋宏之の2名が立ち合わせていただきました。(中略)時アシ原の南側と西側の田んぼへの散布はされず、近くの田んぼに対する散布は地上2mの高さからとして、農薬が散らない様にご配慮いただきました。(中略)心からお礼申し上げますとともに、シロハラクイナを見るために集まる人たちが、万一にも農地や農作業などに悪い影響を与えないように、できるだけ指導していきたいと考えていることをお伝えし、ご挨拶とさせていただきます。



農薬散布作業(藤掛保司撮影)

(シロハラクイナの繁殖状況については、後日まとめて本誌に掲載する予定です。)



## 野鳥情報

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇5月1日、センダイムシクイ約5羽、コムドリ2羽、ホオジロのさえずり、アカハラ、アオジ。5月8日、キビタキラしき地鳴き。コアジサシ3羽飛来、1羽、釣堀に飛込み小魚を獲る。まだアカハラがいる(鈴木紀雄)。

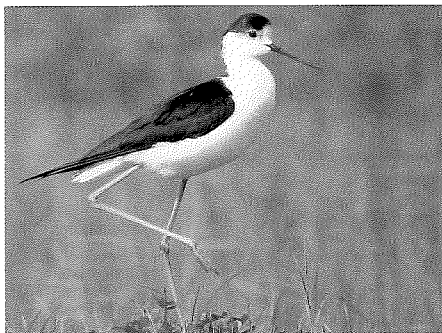
**さいたま市岩槻区掛** ◇5月1日、水田にムナグロ約50羽。5月21日、元荒川の林からホトトギスの声。コムドリ♂1羽(鈴木紀雄)。◇5月14日、ムナグロ59羽、コサギ、セグロセキレイ(本多己秀)。

**さいたま市岩槻区馬込** ◇5月6日、ムナグロ約20羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区長宮** ◇5月6日、ムナグロ6羽、コアジサシ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区野孫周辺** ◇5月7日、ムナグロ約20羽、チュウシャクシギ、アマサギ13羽、チュウサギ9羽、アオサギ、ダイサギ、コサギ各1羽。以前はチュウサギ減少が言われたが、今はコサギ減少が著しい。5月11日、ケリ1羽確認。5月14日、ケリ1羽。5月22日、ケリ1羽、チュウシャクシギ1羽。5月23日、ケリ4羽確認。全て成鳥。2番になったのか、訳が分からない。依然として繁殖している感じが無い。5月24日、ケリ2羽、しばらく車内から見ていたら、東南東へ飛び去った。5月29日、ケリ見つからず。畦で休むキアシシギ4羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区大谷** ◇5月19日、田んぼの中の本の灌木及び数メートルの範囲の



セイタカシギ(蟹瀬武男)

アシにゴイサギ成鳥約20羽がかたまつてとまっていた(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区太田** ◇5月21日、庭にシジュウカラ親子が訪れてにぎやか。全体に色が薄く、嘴が黄色っぽく、黒ネクタイもあまりない。巣立ちビナ5~6羽が枝にとまって「ピーピー」鳴きながら、羽をふるわせ餌をねだる。親鳥も忙しそう。その内、メジロ親子も来た。メジロの巣立ちビナは親より小さく、アイリングが細くて不完全(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇5月2日、A'区でチュウシャクシギ5羽、ムナグロ8羽、Aside区でムナグロ約70羽。A区でチュウシャクシギ、ムナグロ2羽、オオジシギ1羽。5月16日、A区でムナグロ約40羽、チュウシャクシギ1羽。Aside区でムナグロ23羽。A'区でムナグロ79羽、チュウシャクシギ4羽、キョウジョシギ4羽(鈴木紀雄)。◇5月27日、イワツバメ(井内寛裕)。◇5月28日、セイタカシギ3羽、アカガシラサギ1羽(海老原美夫)。

**さいたま市見沼区丸ヶ崎** ◇5月14日、ムナグロ43羽、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、カルガモ。5月20日、カワセミ♂1羽、小魚を捕えて食べる。オオヨシキリ数羽、コヨシキリ1羽(本多己秀)。

**上尾市大宮ゴルフコースの森** ◇5月4日午前9時、キビタキサえずる(立岩恒久)。

**上尾市井戸木** ◇5月8日午前6時55分、センダイムシクイ、農家の木でさえずる。5月23日午前6時30分、オオヨシキリ、農家の竹林でさえずる(立岩恒久)。

**上尾市藤森・中分みどりの森保護区** ◇5月11日午後2時、キビタキサえずる。5月12日午前6時20分、キビタキサえずる(立岩恒久)。

**上尾市中分水川神社の森** ◇5月23日午前6時10分、キビタキサえずる(立岩恒久)。

**桶川市川田谷の森** ◇5月4日午前11時、キビタキサえずる。5月9日午前11時30分、5月25日午前11時30分にもキビタキサえずる(立岩恒久)。

**桶川市若宮** ◇5月5日午前6時20分、西口公園でキビタキが私の顔を見に、さえずりながら近くまでやって来た。同日午前6時30分、同所でヒヨドリの渡り、50羽以上が南西から北東へ。5月13日午前6時30分、メボソムシクイ、若宮神社の樺の木でさえずる。5月18日午前4時30分、5月19日午前10時、5月21日午前7時、5月23日午前5時、自宅ベランダでカッコウの声。5月26日午前6時15分、若宮神社の電線でカッコウ♀「ピピピ…」と鳴く。5月27日午前7時、桶川中学校西側の桜の木でコゲラの親子連れ(5羽)。5月28日午後3時50分、カッコウ2羽、鳴きながら自宅上空を北から南へ(立岩恒久)。

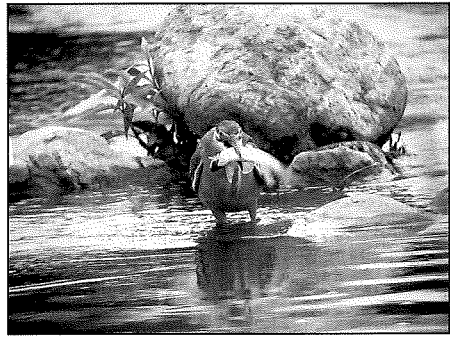
**桶川市上日出谷** ◇5月12日午前9時30分、市民農園でカッコウ鳴く。昨年より10日早い。5月15日、17日、20日、23日、25日、29日にもカッコウ鳴く。5月17日午前7時、ツミ2羽、上空を「キキキ…」と鳴きながら旋回する。6月1日午後4時、コチドリの親子連れ。ピンポン玉位のかわいいヒナ2羽、「ピピピ…」と鳴く(立岩恒久)。

**蓮田市黒浜** ◇5月1日、国立療養所内東縁の林内でオオルリ。5月22日、黒浜沼でオオパン1羽、パン、カイツブリなど。5月28日、黒浜沼でコアジサシ2羽、小魚を捕えてはプレゼントしていたので♂♀と思われる(鈴木紀雄)。◇5月19日、国立療養所内でホトトギス鳴く、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ。5月22日、同所でオオルリ♂1羽、エナガ2羽、コジュケイ♂1羽。5月25日、同所でウズラ2羽、3m位先にいて、2~3秒見られたがすぐに草の中に隠れてしまった。エナガ、コガラがシジュウカラと混群をなしていた(十数羽)。ホオジロが木のてっぺんでさえずっていた(本多己秀)。

**蓮田市笹山** ◇5月15日、ムナグロ23羽(鈴木紀雄)。

**蓮田市蓮田** ◇5月17日午前1時30分、アオバズクの声在今年初めて聞く(本多己秀)。

**春日部市不動院野** 5月6日、ムナグロ約15羽(鈴木紀雄)。



**ササゴイ(久保田忠資)**

**春日部市谷原新田** ◇5月6日、ムナグロ9羽(鈴木紀雄)。

**春日部市大増新田** ◇5月6日、ムナグロ9羽。5月19日、ムナグロ、キアシシギ(鈴木紀雄)。

**春日部市金崎** 5月17日、ムナグロ約25羽(鈴木紀雄)。

**春日部市水角** ◇5月17日、ムナグロ約20羽(鈴木紀雄)。

**幸手市下吉羽** ◇5月6日、ムナグロ約40羽(鈴木紀雄)。

**杉戸町北蓮沼** ◇5月6日、ムナグロ約25羽(鈴木紀雄)。

**吉川市南広島** ◇5月17日、ムナグロ18羽(鈴木紀雄)。

**吉川市下内川** ◇5月17日、チュウシャクシギ2羽(鈴木紀雄)。

**松伏町魚沼** ◇5月17日、キョウジョシギ1羽(鈴木紀雄)。

**戸田市道満彩湖** ◇5月28日、コアジサシ2羽、モズ2羽(雄成鳥と巣立ちヒナ)、ヒバリ2羽十、セッカ2羽十、オオヨシキリ多数、ホオジロ、コサギ、ダイサギ1羽ずつ(井内寛裕)。

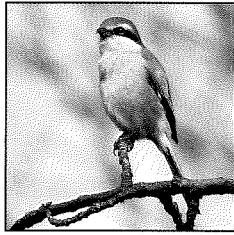
**渡良瀬遊水地** ◇5月27日、オオヨシキリも混じり、コヨシキリがあちこちで鳴いている。カッコウが2~3ヶ所で同時に鳴き、葦原からは「オウ、オウ」とヨシゴイの声。谷中湖上空でコアジサシ3羽、湖中の建物にハヤブサ1羽(鈴木紀雄)。

**表紙の写真**

**チドリ目シギ科クサシギ属アオアシシギ**  
撮影 町田好一郎(本庄市)



## 行事案内



モズ(久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### リーダー研修会(要予約)

期日：9月3日(日)

会場：さいたま市民会館うらわ

詳しくは8月号9頁をご覧ください。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：島田、和田、中里、森本、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、大澤、新井(巖)、千島

見どころ：大麻生に小さな秋を見つけに来ませんか。渡り途中のツツドリ、ノビタキ、ショウドウツバメ。足元にクズ、センニンソウ。コオロギ3兄弟の演奏もありますよ。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月16日(土)午後3時~4時ごろ

会場：支部事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野

澤

見どころ：三室の探鳥会は、普通の鳥を見ながら、見沼たんぼの花や木々を楽しむ会。季節や天候、芝川や代用水の流れに合わせてコースを変えて歩きます。暑い夏を無事にすごした鳥たちや、他の生き物の小さな営みが続いています。

### シギ・チドリ類県内調査

期日：9月18日(月・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

#### ◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分 荒川総合運動公園入り口の土手の上。

交通：浦和駅西口から8:40 荒川総合運動公園行きバスで終点下車。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要。雨天でも行います。秋はシギ・チドリが大変少ないこともあります。

### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月23日(土・祝)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:13→坂戸で越生線乗り換え8:42発。または寄居7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR 川越線大宮7:35→川越で東武東上



線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、久保田、志村、増尾、杉原、高橋(優)原、林、藤澤、持丸、山田(義)

見どころ：本誌6月号「高麗川の野鳥」によれば、カワセミとセグロセキレイは、なんと驚きの12年間、33回連続出現です。極々身近な鳥なんですね。足元の秋の草花も観察しながら散策しませんか。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月24日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)、山口

見どころ：渡りの鳥たちに期待して歩きましょう。そろそろ見納めのツバメや高鳴きするモズなども探しましょう。鳥の少ない時季です、足元の草花に秋を見つけましょう。

### 松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月24日(日)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス乗り場から8:50エローラ行きバスで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、神場、吉岡(明)、小菅、土澤、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：シラコバトを見つけるのがいよいよ難しくなってきましたが、ヒガンバナの咲く田んぼには、サギの仲間7種が勢ぞろい。青空にはチョウゲンボウが舞っています。地元公民館との共催で、地域の方との交流も楽しみな魅力いっぱいの探鳥会です。

### タカの渡り調査

期日：9月30日(土)、10月1日(日)

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られ、タカ類についての知識も得られます。初めての方もお気軽にどうぞ。雨天(小雨でも)中止。調査のため参加費は不要です。

#### ◆天覧山(飯能市)：10月1日(日)

集合：午前9時から正午まで、都合のよい時間に山頂展望台へお越しください。近くに水洗トイレあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

#### ◆物見山駐車場(東松山市・鳩山町)：9月30日(土)

#### ◆小川げんきプラザ本館屋上(小川町)：9月30日(土)

いずれも調査時間は朝から正午過ぎまで。都合のよい時間にお越しください。

### 長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月21日(土)～10月22日(日)

集合：21日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→長野8:43着)、または「あさま505号」(東京7:28→大宮7:52→長野8:53着)。

費用：10,500円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記、菱沼一充

担当：菱沼(一)、藤掛、中里、長嶋

見どころ：新そばの季節がやってきました。きのこも美味しい。ムギマキ、マミチャジナイなど、この季節でなくては会えない仲間との出会いも待っています。  
注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



## 行事報告

3月21日(火、休) 長瀨町 宝登山

参加：37名 天気：晴

トビ ノスリ キジ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ カヤクグリ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 今年も天気良しの鳥見日和。昨年に続き鳥に振られてしまったものの、全員でアオゲラ♂を見られ、中にはカヤクグリをじっくり見た人も。山道ではウグイスのさえずりを聞いたり、サンショウウオの卵を見たり。山頂に着いて、ロウバイ、梅の花などと秩父の山々を見れば、やっぱり宝登山は気持ちよい探鳥会なのではないかと思うのは私だけか? (井上幹男)

3月21日(火、休) 坂戸市 高麗川

参加：49名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ コチドリ イカルチドリ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) ウグイスの声をバックに、リーダーの挨拶。オオタカが番で舞い、モズは3番も。繁殖期を感じる。カワセミはジョウビタキの♂に留守番依頼中。アオゲラの♂を全員で観察しているときに、ウグイスが近くの梢に来て鳴いてくれた。鳥合わせ後は河川敷でウグイスの声を聞き、コチドリを見ながらお弁当を食べた。(藤掛保司)

3月25日(土) 栃木県日光市 東照宮裏山

参加：52名 天気：晴

ダイサギ カルガモ カワアイサ トビ ノスリ クマタカ キジバト アカゲラ コゲラ イワツ

バメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ キクイ タダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) スタート直後の大谷川でカワガラスのみならず、最近生息域を広げたのかミソサザイが姿を見せてくれた。稲荷沢沿いの道では、多くのカラ類が現れてキバシリのおまげが付いた上、昼食時に山の稜線にクマタカが飛翔して全員が満足した。後半の大猷院へのコースを寺や神社が混在する地域に変更したが、梢にいたマヒワの群れを全員で堪能して、満足、満足、大満足で終了。(玉井正晴)

3月26日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：28名 天気：曇

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ オオタカ キジ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 霞がかかるような曇り空。鳥は種は少なかったけれど、じっくり見られた種が多くて楽しかった。オオタカとカラスのバトル、いつ見ても楽しい光景だ。高枝の上ではカワラヒワが賑やかにさえずり、久しぶりにこんなに多くのカワラヒワを見たという人が多かった。ツグミも旅立ちに備えてか採餌に忙しく、ヒバリは高く鳴き、ツバメも舞った。1月には1羽もいなかったカモたちも池に戻り、カワセミも2羽出てくれ彩りを添えた。まだ芽吹かない冬枯れの草地をバックにコバルトブルーはすばらしい。高速の新幹線先頭モデルはカワセミの水中に飛び込むスタイルを参考にするとTVでやっていたのを思い出して、期待したがそれはなかった。(内藤義雄)

3月26日(日) 狭山市 入間川

参加：31名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ オオタカ サシバ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ

ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 1月の探鳥会の数日後、コハクチョウの若鳥1羽がやってきた。すぐにいなくなると思っていたら、まだ残っていた。初記録。また、南からはサシバが帰ってきた。秋の記録はあるが、3月は初めて。(長谷部謙二)

4月1日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 49名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ コチドリ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 絶好の花見日和。下宮橋で花より鳥と訪れた頭上をツバメが挨拶。その後も中ノ島までにチドリ3種や黒髪になりかけのオオジュリン。北に向きを変えて歩き始めると、白髪と赤の鮮やかなベニマシコ。史跡ゾーンに入り右折し内野で谷中湖を振り返れば、浮島の上を悠々と飛ぶチュウヒ。雷電神社跡地で東にオオタカと、ポイントごとに楽しめた。葦焼きから1週間が経って、黒い焼け跡に早くも緑の兆し。(内田孝男)

4月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 50名 天気: 曇

ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ キジ バン キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) まさに春爛漫。満開の桜が咲き競う石戸宿。桜見物の人出を避けながらの探鳥となったが、鳥のほうはいまひとつ。鳥合わせの最後に「エサキモンキツノカメムシ」で何とか盛り上がり、無事終了となる。(榎本秀和)

4月2日(日) さいたま市 民家園周辺

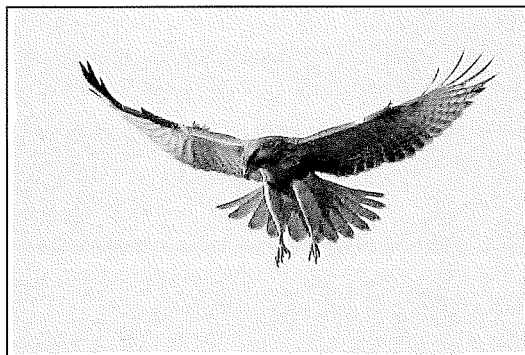
参加: 37名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 色とりどりの花々満開!! 鳥たちにもたくさん会うことができた。特に後半、色鮮やかになったキジのオス、メスたち、そしてこのエリア初の美しいベニマシコの群れ。盛り上がりましたネ~!! よかった、よかった。(伊藤芳晴)

4月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 50名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ カルガモ ヒドリガモ トビ オオタカ ハイタカsp. ノスリ キジ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 強風の中、大麻生駅を出発。目立つのはツグミくらいだ。河原に近づくとシメ、アオジ等が姿を現わす。荒川の河川敷ではノスリ、トビが上空を、小さな池ではバン、オオバン、ヒドリガモ等が見られた。強風のためか全体に鳥数が少なかったようだ。(後藤康夫)



ノスリ(編集部)



チュウサギ(本橋紳浩)



●山形県支部から署名活動協力依頼

同県最上地方を流れる小国川はダムがなく、年間 100 万匹を超すといわれる天然鮎が遡上し、周辺にはオオタカ、クマタカ、ハチクマ、フクロウ、ヨタカなどが生息しています。そこに 37ha もの森林伐採を伴うダム建設が計画され、山形県支部(TEL/FAX 0237-22-1880)は「最上小国川の真の治水を考える会」とともに、建設反対の署名活動をしています。

「最上小国川の真の治水を考える会」

●イヌワシの雛と少年のミュージカル

劇団わらび座から、10月7日(土)14時に朝霞市民会館主催事業として開演されるミュージカル「きらきら風の旅冒険」の案内が届きました。

熊野古道を舞台に、イヌワシの雛「風子」と2人の少年の関わり、生命と自然の大切さを物語るもので、昨年8月の日野市環境情報センターオープン記念公演では、柳生博会長が挨拶に立ちました。大人3,000円、小人1,500円。

わらび座全国公演営業部 TEL 0187-44-3316、FAX 0187-44-3318、<http://www.warabi.gr.jp/>

●今月もまた、ごめんなさいコーナー

前号6ページ「さいたま市緑区上山口新田」は、「見沼区」の誤りでした。

●事務局の予定

- 9月2日(土) 編集部・普及部・研究部会議。
- 9月9日(土) 10月号校正(午後4時から)。
- 9月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 9月17日(日) 役員会(午後4時から)。

●会員数は

8月1日現在 2,284 人です。

活動報告

7月8日(土) 8月号校正(海老原美夫・藤掛保司)。

7月11日(火) コアジサシコロニーの保護に関する要望書を提出。

7月16日(日) 役員会(司会:田中幸男、各部の報告・コアジサシコロニーの保護・行事案内などの確認方法・リーダー研修会準備・その他)。

7月18日(火) 8月号を発送(倉林宗太郎)。

7月25日(火) さいたま農協に、シロハラクイナ繁殖地での農薬散布に配慮を求める要望書を提出。

編集後記

自分の観察地に限るのかもしれませんが、今年はおオバズクの繁殖率が、ここ何年かに比べ高い気がします。越谷市のポイントでは、数年ぶりの繁殖確認で、2羽が巣立ちました。同じく松伏町のポイントでは3羽、旧庄和町のポイントでは3羽の雛を確認できました。皆さんのフィールドではいかがだったでしょうか。

(山部)

しらこぼと 2006年9月号(第269号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>  
 編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)  
 住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608  
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社